

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
個人研究費
2010年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名	氏名
	観光学部・教授	中西 裕二 印
研究課題	中世仏教と宗教民俗の関係に関する歴史人類学的研究	
研究期間	2010 年度	
研究経費	500,000 円	

研究の概要(200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)

本研究課題は、中世に日本各地に展開された地方寺院が、中世仏教の理念とあり方を地域社会に伝播し、それが日本の宗教民俗文化の基礎構造を形成したという仮説を立て、中世に創建された寺院(ここでは中世寺院と呼ぶ)を中心とした地域文化や宗教儀礼に関して文献調査、現地調査をおこなった。またこの仮説のもつ妥当性について、歴史学・宗教学といった隣接領域の研究者を交えた研究会を開催し、修験道・権門寺社といった枠内でも、日本の宗教民俗文化形成において妥当性をもつ可能性がある点、本視座での調査研究の一層の必要性がある点が確認された。

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[歴史人類学] [神仏習合] [民俗宗教]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、山形県寒河江市の慈恩寺及び慈恩寺集落、静岡県島田市の智満寺及び千葉集落という2箇所のフィールドを設定し、調査研究を進める予定であったが、現地でのフィールドワークに関しては、校務との関係上、智満寺と千葉集落しか実施できず、慈恩寺については翻刻された史料集に基づく文献研究のみとなってしまった。これらの研究から明らかになった点は以下の通りである。

- ① 慈恩寺集落、千葉集落とも、寺院の周囲にあった院坊の複合体（以下では「坊集落」と記す）から構成された村落である点は、史料面から明らかであったが、双方の成立過程については若干の差異が認められた。慈恩寺集落は3つの院と約20の坊（かつては45坊近く）から構成されていたが、近世は3院のうち真言宗2院、天台宗1院、その他の坊は全て「修験」という分類であった。だが、この「修験」である各坊も、本山派・当山派という中央の修験教団、または近隣の出羽三山の修験に包摂されることなく、慈恩寺一山という組織形態であった。また修験の階梯を示す臈次にしても、近世において、修行の回数などは全く考慮されず、基本的に家格制のような形で継続していたようである。これらから、慈恩寺集落の場合、近世の幕藩体制下における家制度の浸透により、中世の一山組織が中央や地方の一大宗教組織のもとで改編されず、そのまま残存した可能性が認められた。逆に智満寺周辺の千葉集落の場合、集落成立時から一山の中に組織化されながら、常に在家という位置づけであり続けた点が明らかになった。常に在家として寺院を支えるが、千葉集落の男性は15歳で1年間出家し、村の20人の長老になると再度剃髪し寺院を支える、という慣行が明治初期まで続けられており、この組織形態は中世から残存して来たものと考えてよいと思われる。また、千葉集落の場合は、大工の家が多いという特徴があり、中世の一山組織が技能集団を多く抱えていた、という傾向が近世においても継続していたと考えられる。
- ② 両集落は、近世の幕藩体制においても特別の地位を持っていたようである。慈恩寺は二千石のも朱印地をもち、それが独自の一山組織を維持する源泉になっていたと思われる。千葉集落も、大井川の治水に関する助郷が免除されている唯一の集落であったことから、独自の地位を持っていたことが考えられる。

これらのデータを比較検討するため、2011年1月23日に研究会を開催した。研究会のプログラムは以下の通りである。

日時：1月23日（日）9:00～16:00

場所：立教大学新座キャンパス5号館6階会議室

【内容】

9:00～10:00 中西裕二（観光学部教授）「日本の宗教民俗史の再構成に向けて」

10:00～11:30 中村琢（福岡大学大学院人文科学研究科博士課程）

「北部九州の一山組織と修験の成立」

コメント：白川琢磨（福岡大学教授）

12:30～14:00 オリオン・クラウタル（日本学術振興会特別研究員）

「日本の近世仏教にみられる宗教と民俗」

コメント：佐藤弘夫（東北大学大学院人文科学研究科教授）

14:15～16:00 総合討論「日本の宗教民俗史の脱構築にむけて」

（中西裕二、佐藤弘夫、白川琢磨、オリオン・クラウタル、中村琢）

研究成果の概要 (つづき)

本研究会では、九州における近世修験教団と民俗について中村が、近世の仏教のあり方についてオリオン・クラウタルが報告をおこない、それについて宗教学の立場から白川が、歴史学・日本宗教史の立場から佐藤がコメントをおこない、神仏習合を旨とする中世仏教の影響が近世以降も長く続いたが、そのエージェントのあり方に多様性が認められることが指摘された。この点については、従来は修験教団のみに注目が集まる傾向があったが、本研究会の中では、より広い意味での日本仏教、日本の宗教といった枠組みを再構築することの必要性が強く確認された。

等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

（様式3）

立教SFR－個人－報告

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
- ②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
- ④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

③シンポジウムの開催

日時：2011年1月23日（日）9:00～16:00

場所：立教大学新座キャンパス5号館6階会議室

④学会発表

日時：2010年9月4日（土）12:20-12:40、日本宗教学会第69回学術大会

場所：東洋大学白山キャンパス

発表者：中西裕二

発表タイトル：修正会と「三度坊主」－静岡県島田市智満寺と千葉集落－